

令和元年度 第2回甲賀市男女共同参画審議会 会議録

【日時】 令和2年2月12日（水） 15：30～17：00

【場所】 会議室402

◎出席委員

名簿：別紙のとおり

◎次第

1. 開会

甲賀市市民憲章唱和

2. 産業経済部長挨拶

3. 会長挨拶

4. 報告事項

・第3回甲賀市市政に関する意識調査の報告について

5. 協議事項

・第2次甲賀市男女共同参画計画（甲賀市女性活躍推進計画）の中間見直しおよび甲賀市女性の活躍アクションプランの取扱いについて

6. その他

7. 閉会

次第1：開会

甲賀市市民憲章唱和

次第2：産業経済部長挨拶

中島 昭彦産業経済部長あいさつ

次第3：会長挨拶

京樂 真帆子会長あいさつ

次第4：報告事項

事務局：資料1の説明および事前に提出された資料1に対する意見・質問への回答について説明

委員：13 ページの結果について男女共同参画社会を知らないというデータを見てショックを受けた。14 ページの20 歳代以下が「知らない」と回答している人が多いのは教育現場の問題であるとも思いますが、どのように分析していますか。

事務局：9 ページのニーズの分析においては、「男女共同参画」はB象限に位置しており、かつ重要度が一番低いところに位置しています。これは、当たり前になっているから重要度が低いという意識の表れなのかもしれませんが、行政側が啓発するうえで重要度が低いという認識はないので、市民の皆さんと行政側のギャップ感をどう埋めていくべきかと考えています。

委員：14 ページの図 127 で、若い世代に知らない人が 19.5 パーセントいることに不快感を抱いています。滋賀県では副読本を使っているので知らないはずはないと思いますが、周知をどうしていくかが重要ではないかと思えます。

委員：9 ページ図 56 のデータについては、60 歳代・70 歳代などの、いわゆる男性は仕事、女性は家庭という価値観を多く持つ世代のデータが反映されているのではないかと思います。若い世代のデータを見ると違う結果が出るのではないかと思います。

事務局：年代別のデータは、次回の会議で示せるよう調整します。若い世代が、学校や職場で学習したことを家庭内において違う世代の家族に啓発していただくこともできるのではないかと考えています。

委員：男女共同参画社会の認知度は男性のほうが低いと思っていましたが、データを見ると女性より男性のほうが高くなっており、自分自身が偏った見方をしていたとわかりました。

委員：男性のほうが認知度が高い理由のひとつは、正社員として会社で働く割合が男性のほうが高いため、国の施策等について情報を得やすい立場にあるからかもしれません。また、人事担当者など行動計画等を策定する立場にある人は、内容についてよく知っているほうだと思いますが、一般の従業員においては、耳にしたことはある

が詳しくは知らないという人が多いのではないのでしょうか。

委員：地域住民や若い世代への周知が必要だということが見えてきたように思いますが、高校、中学校、小学校等への調査、周知活動はどのようにしていますか。

事務局：できていないのが現状です。義務教育課程についてはすべて調査が可能ですし、公立高校についてもご協力をお願いしてヒアリングなどをし、意見を拾っていきたいと考えていますが、現状はそこまで至っていません。

委員：ぜひ検討いただきたいと思います。

委員：去年12月の『広報こうか』のイクボス記事で当社を紹介していただきました。イクボスの紹介は発信力があるなと思います。ただ、今の若い人は選挙さえインターネットで投票できるなら…という話も聞きます。今後は広報紙に加えてSNS等で情報発信すれば、若い人たちへの周知につながるのではないのでしょうか。

事務局：いろいろな啓発をしていますが、本当にどこまで行き届いているか追跡調査も大事ですし、また、来年度の計画見直しにあたっては、有効な方法等について議論していただき、それをうまく施策化できればよいと思っています。また、当課のホームページについても現在洗い直し作業を行っており、皆さまのご意見をいただきたいと思っています。

委員：去年12月に大津の地方法務局で人権相談員をした際、職場、夫婦、地域、人権などについて多くの方から相談を受けた。しかしながら、甲賀で相談を実施する際は電話も少なく、話したいことはあるが周囲の目を気にして相談しにくいと言う人もいました。男女共同参画についても地道な広報・啓発活動をしていくしかないと思います。

次第5：協議事項

事務局：資料2、3の説明および事前に提出された資料3に対する意見・質問への回答について説明

委員：資料2の高校生対象キャリア教育支援事業についてですが、イクボス宣言企業など大きめの企業に対する取組が入っていますが、若い人たちは定職に就くことに積極的でない人も多く、自ら起業したり、ユーチューバーになりたいなどという人も多いと思います。このような人たちへの支援も視野に入っているのでしょうか。

事務局：起業については、若者たちへのキャリア教育の中に入ってくるべきものと考えていますが、定住促進という観点からしっかり働いていただくことが必要ですし、市内の企業も人材が不足しています。市内の小さなお店などの事業承継というかたちでの起業も含めてワンパッケージで考えていきたいと思っています。また、イクボス宣言企業は、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいただいていることと思いますので、そういう企業に市内の若者が就職することによって、定着率の向上にもつながるのではないかと考えています。

委員：若い人の中には、親の事業を継ぐために大企業を辞めて戻ってきたり、IT系の仕事なので都会に住まなくてもよいので戻ってきたという人たちがいます。ただ、小さな町なので、自分のやりたいことと親などから求められていることが違いすぎるため、結局離れていく人もいます。

事務局：子どもたちと親の世代の方がともに、会社にお勤めの方や子育てしながら働いている方、Uターン・Iターンで戻ってこられた方などの生の声を聞く機会をもち、親の押し付けではなく、子どもたちの選択を尊重していけるような枠組みづくりが重要だと考えています。高校の先生方のバックアップをいただきながら、これから始めさせていただくとご理解ください。

次第6：閉会

閉会：則安宏副会長挨拶

以上

17時00分終了